

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	食事と排泄の援助技術		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年次		学期及び曜時限	通年	教室名	各教室
担 当 教 員	藤原由香 和田由佳	実務経験と その関連資格	総合病院にて看護師として勤務			
《授業科目における学習内容》						
<p>人々の健康を促進するために必要な、日常生活行動の援助に関わる援助方法の基本について学ぶ。 人間にとっての食事・栄養と排泄の意味を理解して、対象が健康生活を送るために必要な援助の方法を習得する。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>1. 筆記試験(80%) 2.実技試験・態度(10%) 3.レポート課題(10%) 1・2の割合は授業開講時に説明する 授業・演習などの詳細は授業時に説明を行う</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学[3] 基礎看護技術II 医学書院 看護技術がみえる 臨床看護技術①② メディックケア</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>・事前学習(ワークシート)</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>排泄に対する援助が対象に及ぼす心理的影響に気付き、自尊心を傷つけない援助について考えることができる。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者の栄養状態および水分、電解質バランスのアセスメントの視点が述べられる。医療施設で提供される食事の種類と特徴を述べることができる	PC プロジェクター	授業終了時に示す課題を実施し期限までに提出(ワークシート)	
		各コマにおける授業予定	栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント 医療施設で提供される食事の種類と形態(担当:藤原)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	摂食嚥下訓練の手順を説明できる	PC プロジェクター	授業終了時に示す課題を実施し期限までに提出	
		各コマにおける授業予定	摂食・嚥下訓練基礎知識 食事援助(直接訓練)の実際(担当:藤原)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	非経口的栄養摂取法の種類と特徴を述べるができる	PC プロジェクター	授業終了時に示す課題を実施し期限までに提出(ワークシート)	
		各コマにおける授業予定	非経口的栄養摂取の援助(担当:藤原)			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	食事動作機能障害のある患者の食事介助のポイントが説明でき、援助が実施できる	看護実習室使用	授業終了時に示す課題を実施し期限までに提出	
		各コマにおける授業予定	食事援助の実際(担当:藤原)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	胃管挿入、栄養物注入時の手順、ポイントが説明でき、援助が実施できる	看護実習室使用	授業終了時に示す課題を実施し提出	
		各コマにおける授業予定	経鼻経管栄養法 援助の実際(胃管挿入、栄養物注入)(担当:藤原)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	自然排泄の意義と自然排泄に関わる身体機能が説明できる。	教科書	授業で学んだ内容を復習し、講義終了時に示す課題を実施すること
		各コマにおける授業予定	排泄の意義、排泄器官の機能と排泄のメカニズム（担当：和田）		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 排尿・排便に影響を及ぼす因子を説明することができる。 2. 排泄物の観察の視点を説明できる。	教科書・DVD	授業で学んだ内容を復習し、講義終了時に示す課題を実施すること
		各コマにおける授業予定	排泄のアセスメント、排尿障害と排便障害、自然排便と自然排尿の介助（担当：和田）		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	グループワークを通して排尿に及ぼす影響は何かを考えることができる。	教科書・DVD	授業で学んだ内容を復習し、講義終了時に示す課題を実施すること
		各コマにおける授業予定	床上排泄、グループワーク「尿器と便器の当て方」 一事例一（担当：和田）		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 自然排泄への援助方法が根拠を踏まえて説明できる 2. 排泄物の観察と援助の評価ができる	教科書	授業で学んだ内容を復習し、講義終了時に示す課題を実施すること（ワークシート）
		各コマにおける授業予定	看護用具を使った安全安楽な排泄の援助方法 尿器・便器・ポータブルトイレ（担当：和田）		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	安楽な排泄の援助について説明できる。	教科書・演習	授業で学んだ内容を復習し、講義終了時に示す課題を実施すること（ワークシート）
		各コマにおける授業予定	自然排便と自然排尿の援助（担当：和田）		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	排尿・排便の演習を体験し患者への配慮を考えた援助技術を習得することができる。	教科書・演習	授業で学んだ内容を復習し、講義終了時に示す課題を実施すること
		各コマにおける授業予定	床上排泄、陰部の清潔「便器を使用した陰部洗浄」（担当：和田）		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	排尿・排便機能の障害がある場合の援助を述べることができる。	教科書	授業で学んだ内容を復習し、講義終了時に示す課題を実施すること
		各コマにおける授業予定	排尿・排便の障害がある対象への援助：導尿・浣腸・ストーマ（担当：藤原）		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 導尿に必要な無菌操作技術を確実に身につけることができる。 2. 安全で安楽な援助技術を実施することができる。	教科書・演習	授業で学んだ内容を復習し、講義終了時に示す課題を実施すること（ワークシート）
		各コマにおける授業予定	導尿（担当：藤原）		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	体験を通して排尿・排便の援助の技術を修得することができる。	教科書・演習	授業で学んだ内容を復習し、講義終了時に示す課題を実施すること（ワークシート）
		各コマにおける授業予定	グリセリン浣腸（担当：藤原）		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	体験を通して排尿・排便の援助の技術を修得することができる。	教科書	授業で学んだ内容を復習し、講義終了時に示す課題を実施すること（ワークシート）
		各コマにおける授業予定	まとめ（担当：和田）		